



遺跡見学会を支えるボランティアの皆さん

5

首羅山遺跡が目指すもの

5 首羅山遺跡が目指すもの

5-1 首羅山遺跡の整備が目指すもの

首羅山遺跡の整備は、町民の健康増進、自然教育や環境教育、歴史教育、道徳、体力づくりなどの「生涯学習への活用」を促進するものです。さらに、地域の山でしかなかった首羅山が多くの人に知られようになることで「郷土への愛着や誇り」が醸成されます。また、町民や企業の活躍の場が増えることによる「経済効果」を生み出すことができます。

このように、首羅山遺跡の整備は町民が生き生きと暮らす久山町をつくることを目指しており、第3次久山町総合計画に掲げる「安心・元気な「健康が薫る郷」」の実現への大きな原動力となるものです。

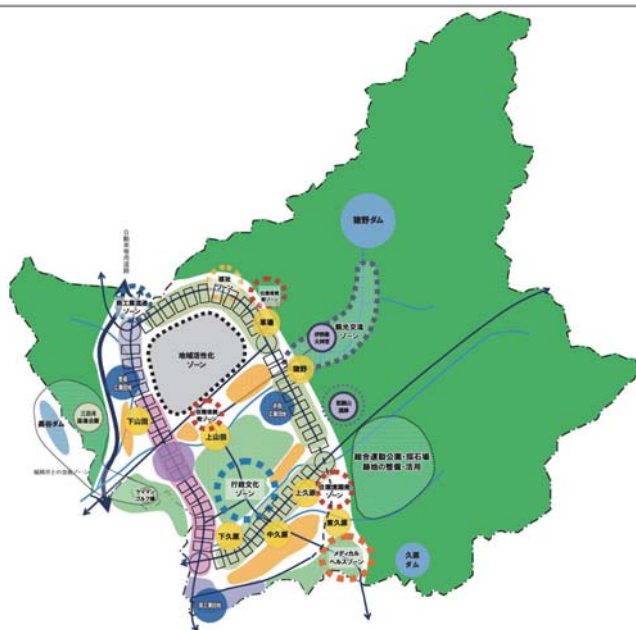


第3次久山町総合計画

久山町は第3次久山町総合計画（平成24年4月策定）において、『安心・元気な「健康が薫る郷」の実現 ～みんなで創り、みんなで発信～』の将来像を掲げ、久山町にしかない魅力ある暮らしの確立、定住人口の安定・増加、町内外の多彩な交流拡大の実現に取り組んでいます。

首羅山遺跡のある地域は、「自然・歴史文化資源の魅力を活かし都市との交流を広げる地域」における「歴史文化の保全活用」ゾーンに位置づけられています。

※本基本構想巻末の付編参照



5-2 基本理念

首羅山遺跡は、福岡平野の東の端、標高288.9mの白山にある中世山林寺院跡です。対外交易によって繁栄し、国際色豊かな中世の博多と連動した遺跡として、比較的早い時期の禅宗の影響や大陸系の優品の出土など、日本における中世山林寺院の地域性を示す遺跡として稀有な存在と言えます。近世には宝満山修験道の行場のひとつとなるなど、古代から近世の北部九州の山林寺院の変遷を見ることができます。

一方、北部九州の国指定史跡の時代分布を俯瞰した場合、そのほとんどが古代に集中し、対外交流が最もさかんであった中世の史跡は、元寇防塁など僅かにすぎません。大陸への窓口としての北部九州の地理的特質を示し、中世という時代の一端を示すものとしても価値を有する遺跡であるといえます。

本質的価値の保存

首羅山遺跡に残される遺構は、基壇をもつ五間堂や庭園状遺構など、残存状況が良好であり、本質的価値を確実に保存することが重要だといえます。

さらに、本谷地区・西谷地区・山頂地区・日吉（山王）地区など、各地区ごとに様相が異なるという特質を活かし、遺構の部分的復元やゾーン毎にテーマを持った空間づくりを行うことが必要です。そのうえで、一般の来訪者にもわかりやすい遺跡表現を心がけます。

遺跡と自然環境の調和

遺跡地周辺に現存する照葉樹林帯、蜚が飛び交う豊かな生態系など、福岡都市圏にありながら、遺跡地周辺には豊かな自然が残ります。現状では、鉄塔などの人工物にさえぎられることなく、往時の風景を連想することができます。山林寺院周辺の自然環境も含めて現状をできるだけ保持するような整備を推進し、遺跡と自然環境の調和をはかりながら、50年、100年後に楽しめる整備を行います。

魅力あるまちづくりへの寄与

自然や風景を満喫できるトレッキングルートを整備するなど「健康が薫る郷」の実現を目指す久山町として、健康増進に寄与できるような空間の創出を積極的に推進します。

また、整備の進行と併行した調査・研究を深めることに努め、町民や地域、研究者、行政関係者などとも幅広く連携していきます。その成果は適切かつ迅速に発信し、魅力ある町づくりにつなげていきます。



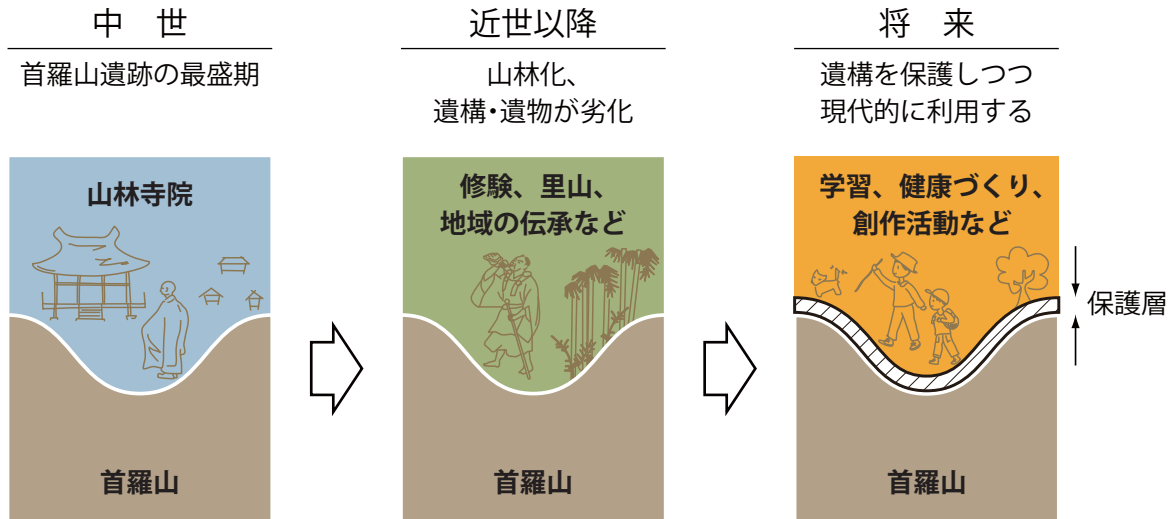
町民の力を活かした久山町らしい整備

首羅山遺跡が将来にわたる地域の財産として、地域が夢とロマンと誇りをもって遺跡を守り伝えるために、町民の力を活かした久山町らしい整備を行います。

5-3 時代設定と将来像

首羅山遺跡の最盛期である中世をテーマとします。

整備にあたっては、遺跡の保護を確実に行って、遺構や自然、風景を活かした幅広い学習活動、健康づくり、創作活動などを日常的に行うことのできる場をつくります。



5-4 整備の基本方針

(1) 保存整備の方針

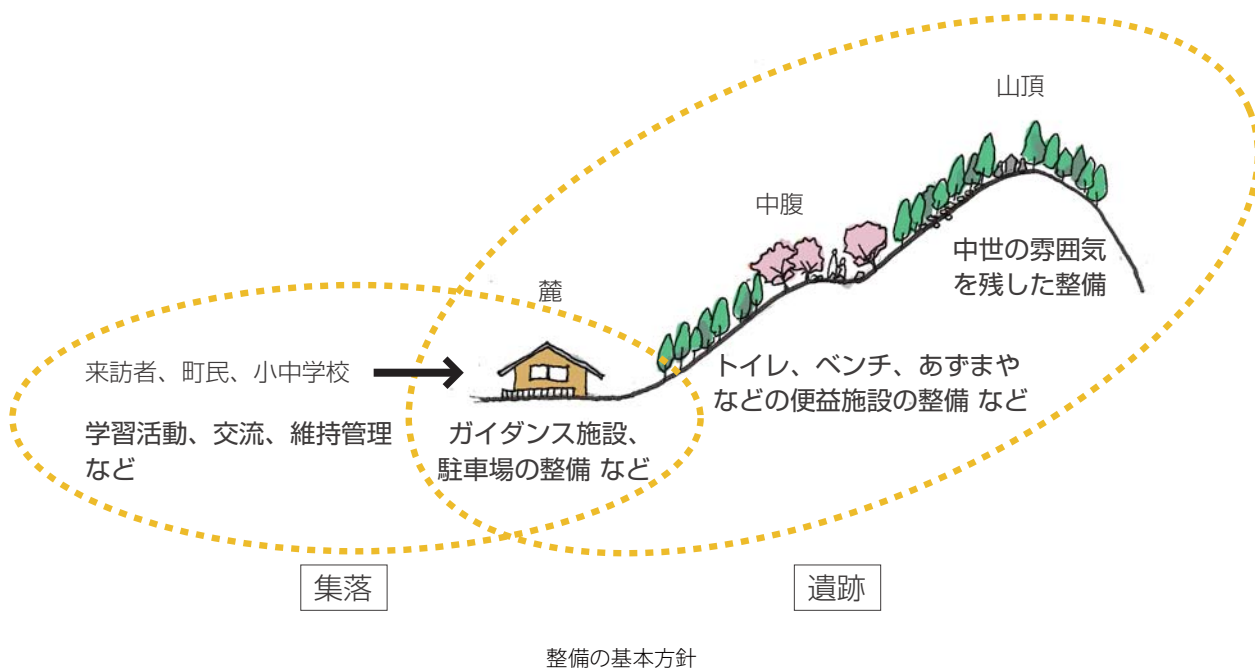
- 第一に、遺跡を確実に保存する
- 保存に障害があるものは取り除く
- 遺跡を保存するための山の保全整備を行う
- 自然豊かな山林にある遺跡の雰囲気を維持する
- 来訪者が現地で本物を体験できるように配慮する
- ゾーニングにより地区の特性に合った整備を行う
- 調査・研究が継続している地区は、調査・研究を中心に行い、その成果をもとに保存整備の方針を定める

(2) 活用整備の方針

- 第一に、保存整備と調和した活用整備を行う
- 歴史への理解を深めるため、子どもや高齢者、海外からの見学者などの様々な利用に配慮しながら、周辺と調和したわかりやすい遺構表現や遺構表示、サイン整備等による情報発信、安全で回遊しやすい山の環境を整備する
- 昔ながらの道や既存の道を有機的につないだり、付け替えたりしながら、集落と遺跡をつなぐ歩きやすい道を整備する
- 山麓は学習や交流、情報発信の拠点となるガイダンス施設や駐車場を整備する
- 既存の造成地や道路を活用し、便益施設を整備する
- 本来の植生にも配慮しながら、50年後、100年後に楽しめる植物への転換を行う
- 作業道を整備する

(3) 地域との連携の方針

- 整備の検討段階から地域と密接に連携を行い、地域の活力を生かし、地域が守り続けることができる取り組みを行う
- 小中学校と連携し、学習活動などに積極的に利用する
- 自然、食、アート、健康などの地域が関心をもつテーマを取り入れながら、遺跡の枠にとらわれない活用を行う



本谷地区の椿

白山神社入口の桜



画：山野芳朗氏



西谷地区の発掘調査風景

6

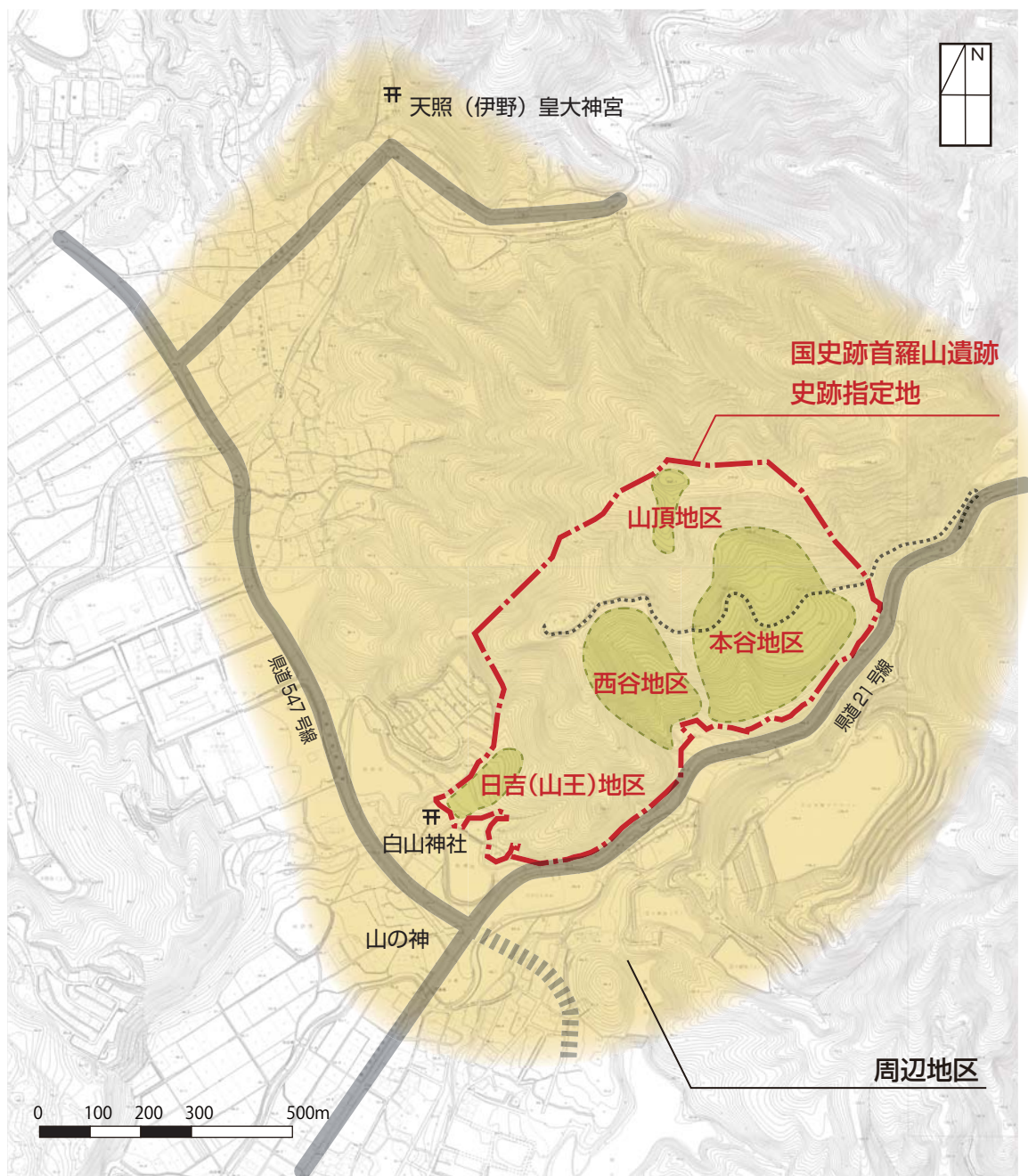
各地区の整備方針

6 各地区の整備方針

6-1 ゾーニングによる重点的な整備

首羅山遺跡は山内に立地し、その規模も大きいことから、史跡指定地内の山頂地区、本谷地区、西谷地区、日吉（山王）地区の整備を重点的に行います。また周辺地域についても、現地の現状・課題を踏まえた整備方針を定めます。

周辺から見た際に首羅山遺跡の位置などがわかりにくいため、首羅山遺跡が外から見てもわかるように整備します。



全体ゾーニング図

6-2 各地区の整備方針

本谷地区

本谷地区は、五間堂跡などの重要な遺構がありますが、未解明な部分があり、調査・研究に時間がかかる地区です。

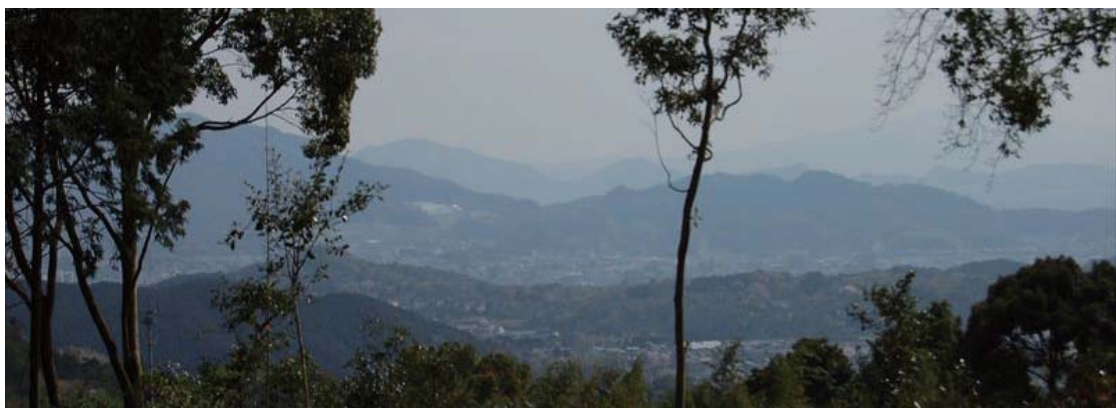
調査・研究の継続と遺構・遺物の保存を優先し、遺跡見学会などの機会を設けて調査・研究の過程を見せる方法を検討します。将来的には、まずは五間堂跡のあるエリアを公開します。



谷の最深部にある五間堂跡



谷の最深部にある五間堂跡周辺



五間堂跡のある付近からの眺望

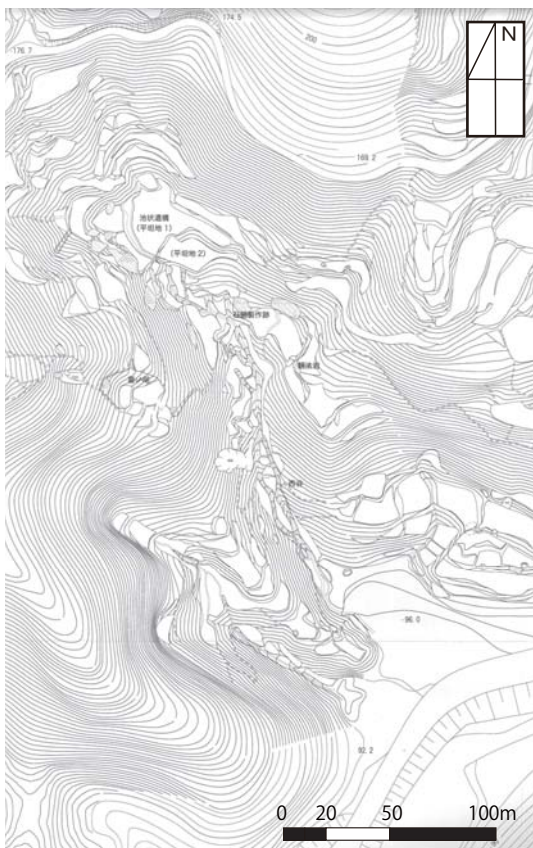
西谷地区

西谷地区は庭園状遺構、墓ノ尾、坊跡の平坦地など様々な空間や、石鍋製作跡や観法岩などの遺物がある見どころが多い地区ですが、未解明な部分が多く、調査・研究に長い時間がかかる地区です。

遺構・遺物の保存を優先し、当面は調査を主体とします。また、遺跡見学会などの機会を設けて調査・研究の過程を見せる方法を検討します。その後、発掘調査の成果をもって庭園状遺構を公開するための整備を行います。



西谷の石垣



西谷地区図面



谷筋に沿って広がる平坦地

山頂地区

山頂地区は薩摩塔など、シンボリックな遺構・遺物が残る地区です。また、久山町や博多湾方面の眺望が良いという特色もあります。

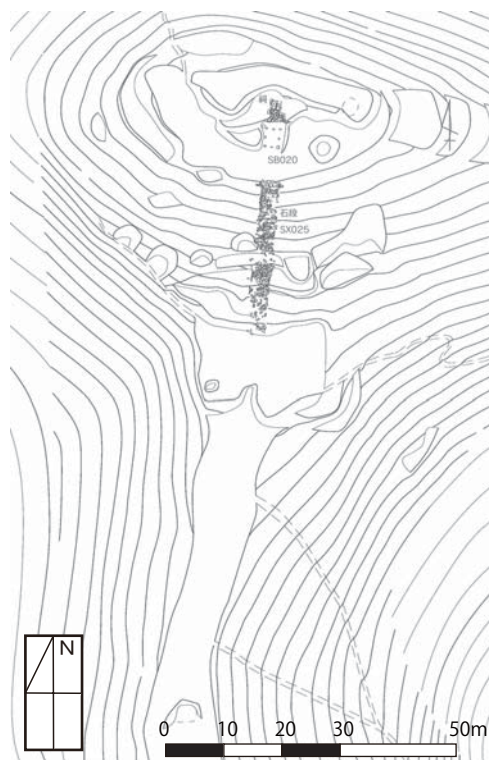
現在も山頂の祠にお参りする町民もいることから、遺跡の確実な保存と信仰の場としての神聖な雰囲気の保全の両立を図りながら、整備を行います。山頂からは福岡平野が見渡せるための眺望の確保を積極的に行います。また、既存の道を有効に使いながら麓の集落から山頂へつながるルート of 整備を行います。



宋風獅子・薩摩塔などの中国製石造物が鎮座する山頂



幅4m、66段の石段



山頂地区遺構平面図

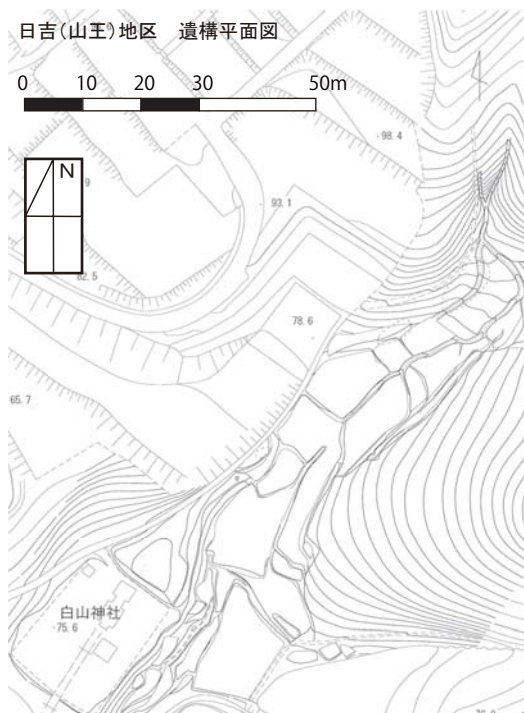
日吉（山王）地区

日吉（山王）地区は未調査のため未解明な部分も多い地区です。一方で、首羅山遺跡の入口として重要で、アクセスもしやすい地区です。

遺構を保存しながら、白山神社やガイダンス施設の活用と合わせて、周辺施設との相乗効果を図り、気軽に遺跡の雰囲気を感じることができる場を整備します。



良好な状態で残る平坦地



山の神交差点付近から首羅山遺跡入口のある白山神社方面を見る



平坦地横の山道

周辺地区

周辺地区には首羅山遺跡に関連する文化財や伝承があり、首羅山を支えてきた猪野・久原・山田の3地区それぞれと首羅山遺跡を結ぶ道も確認されています。また首羅山遺跡の麓では、白山神社周辺の久原地区や天照（伊野）皇大神宮周辺の猪野地区など、歴史を活かした魅力づくりに取り組んでいます。

このような背景を踏まえ、首羅山周辺の景観を保持し、町内全域と連携を図りながら、首羅山の入口やガイダンス施設などの整備を行います。また、周辺への情報発信も行います。



首羅山から福岡平野・博多湾を望む

7

整備基本構想の実現に向けて

7 整備基本構想の実現に向けて

7-1 基本的な考え方

首羅山遺跡は規模が大きく、遺跡の調査、研究から保存、整備には長い時間がかかります。一方では、山の遺跡であることから、山内にある遺跡を確実に保護することや、町民の高い期待にできるだけ迅速に応えることも必要です。今まで通り町民が手をかけ遺跡に関わりながら、町民と一緒に町のシンボルとなる遺跡をつくっていきます。

7-2 スケジュール

第1期：遺跡の周知（平成26年度～平成31年度）

より多くの来訪者に首羅山遺跡や山の魅力を知ってもらうため、エントランスの整備と山頂へのルート確保に取り組みます。

日吉（山王）地区の遺構は、平坦地の空間的な広がりがある程度の適度な間伐、倒木や竹林の整理などを行い、多目的広場として利用できるような簡易な整備を行います。

山頂地区に向かう回遊ルートを確保し、山頂地区の遺跡の見学、健康づくりや自然体験などに利用できるように目指します。

また、計画の推進に合わせて随時、きめ細やかに町民に情報を発信するとともに、遺跡を介して首羅山に関わる機会を積極的に設け、ソフトの面からも遺跡の周知に取り組みます。

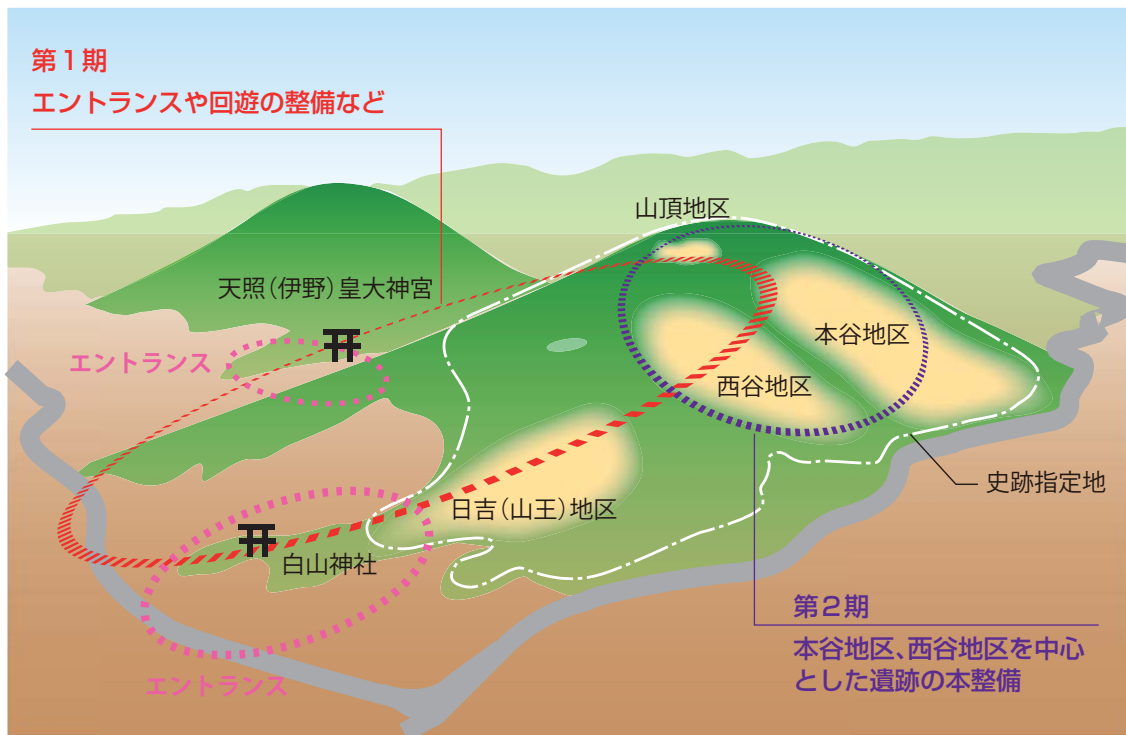
第2期：遺跡の本格整備・一般公開（平成31年度～平成36年度）

未整備地区の調査を継続し、概ね10年後、本谷地区の五間堂跡周辺や西谷地区庭園状遺構の一般公開を目指します。

また、ガイダンス施設を拠点に、町民や町外からの来訪者への情報発信に取り組めます。

長期：計画の見直し

発掘調査の成果をもって計画の見直しを行い、未整備の遺構の調査・研究、整備の方針を再検討します。山の植生転換に取り組み、50年、100年後にも親しまれる遺跡を目指します。



整備イメージ

7-3 情報発信

小学生が制作した壁画に書かれた「私たちの首羅山遺跡」という言葉が示すとおり、遺跡を守り伝えるのは最終的には地域です。地域が気づき、地域が深く関わってこそ遺跡の理想的な保存につながります。

より多くの町民と首羅山遺跡の保存・整備・活用を通して、「ふるさとを誇りに思う」、「ふるさとに残る文化財を大切にしたい」という想いが共有できるように、最新の調査・研究・整備の情報提供だけでなく、町民や小中学校、研究者など様々な立場から、首羅山遺跡についての情報を発信します。



久原小学校卒業生制作

7-4 役割分担

首羅山遺跡の調査・研究、整備の情報を、庁内、研究者（首羅山遺跡保存整備指導委員会）・関係行政機関（文化庁・福岡県教育委員会）、町民に迅速かつ適切にわかりやすく発信し、首羅山遺跡を取り巻く人すべての遺跡への愛着や誇りを高めるとともに、いろいろな人々と連携し、地域と共に里山としての遺跡を育てていきます。

行政

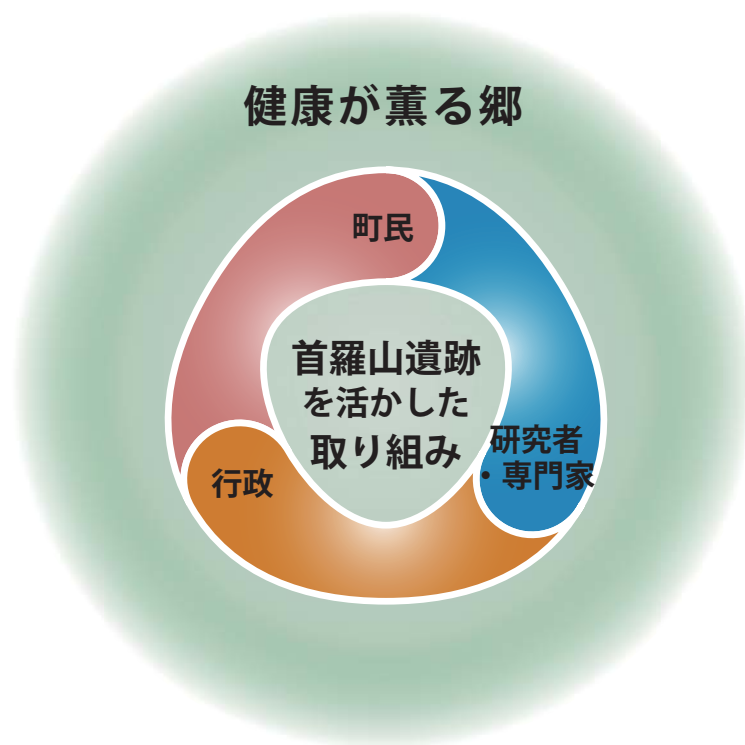
久山町が主体となって、首羅山遺跡が町民の交流拠点となるように、より多くの町民が関わることでできる場の創出や、町民な発想を生かした取り組みの支援を行います。

研究者・専門家

専門性を活かして積極的に調査や情報交換に取り組み、首羅山遺跡の歴史を解明し、町民の誇りの礎を築きます。

町民

勉強会の開催や歴史ガイド、学校教育との連携、遺跡見学会での多様なおもてなしの活動などに取り組み、その価値を多くの人と共有しながら、活動の輪を広げていきます。



安心・元気な「健康が薫る郷」の実現に向けた
行政、研究者・専門家、町民の連携

7-5 今後の課題

土地の公有化

遺跡を確実に保存するため、土地の公有化を進めます。

地区の整備方針を踏まえた保存・整備・活用方法の検討

地区の整備方針に沿って、各地区の遺構・遺物の特徴や現地の状況を踏まえた具体的な保存・整備・活用方法を検討します。

現地の状況を踏まえた機能等の具体的な施設の検討

現地の状況を踏まえながら、園路やガイダンス施設などの施設の配置、規模、機能などを具体的に検討していきます。

基本構想の周知と意見収集

説明会や勉強会、イベントなどの様々な機会でも本整備基本構想の説明や意見を交換する場を設け、町民の理解を深めていきます。

町民が参加しやすい管理運営体制づくり

調査や遺跡見学会、道の整備などの様々な場面で町民が参加しやすいように管理運営体制を検討していきます。